

関東地域評価公表に伴う
各種調査対象主要活断層リストの
更新について

平成28年2月1日

地震調査研究推進本部事務局

■調査対象活断層リストの変遷

○平成9年8月29日

「地震に関する基盤的調査観測計画」を策定。この中で、陸域及び沿岸域における活断層調査の対象となる主要活断層(98断層)を決定。

○平成17年8月30日

「今後の重点的調査観測について」を策定。この中で、新たに12の主要活断層を**基盤的調査観測**の対象活断層に追加。新たに**重点的調査観測**(6断層)・**補完調査観測**の対象活断層(61断層)を選定。

○平成21年4月21日(平成24・25年改訂)

「新たな活断層調査について」を策定。7断層を重点的調査観測に追加。新たに**沿岸海域活断層調査**(37断層)・**短い活断層や地表に現れていない活断層**(8断層)を選定。

○平成26年8月27日

これまでの調査観測計画を統合し、新たに「地震に関する総合的な調査観測計画 ～東日本大震災を踏まえて～」を策定
・基盤的調査観測及び重点的調査観測の対象となる**活断層帯のリストについては、調査観測計画部会で決定**することとされた(基準自体は地震本部決定として上記計画内に既載)。

○平成27年2月9日

調査観測計画部会において、新たな活断層リストを決定。

■ 関東地域評価における主要活断層帯の評価改訂

改訂のポイント

※現行の評価を踏襲した主要活断層帯：
立川断層帯、鴨川低地断層帯、三浦半島断層群、伊勢原断層、
北伊豆断層帯、富士川河口断層帯、曾根丘陵断層帯

(1) 関東平野北西縁断層帯 新名称: 深谷断層帯・綾瀬川断層

現評価では活断層でないとした綾瀬川断層南部を
推定活断層として認定

(2) 神縄・国府津－松田断層帯 新名称: 塩沢断層帯・平山－松田北断層帯・国府津－松田断層帯

周辺の活断層を含めた大幅な断層帯の組み換えを実施
神縄断層は活動を終了したと判断
国府津－松田断層は相模トラフの分岐断層と判断

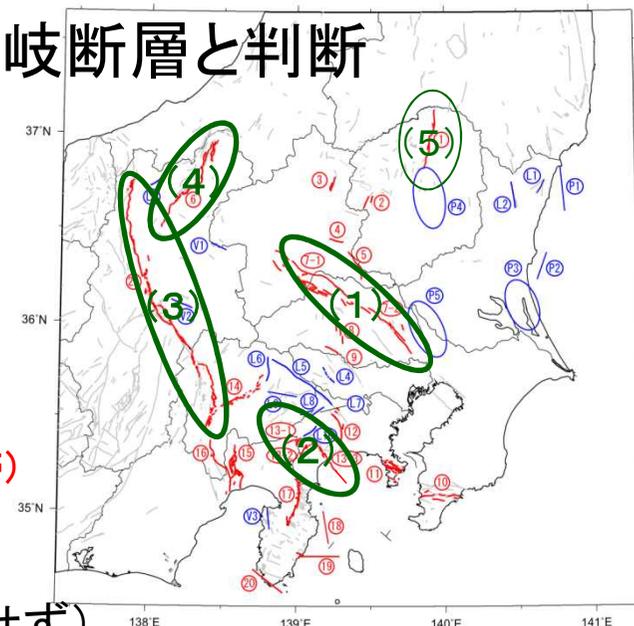
(3) 糸魚川－静岡構造線断層帯

4つの区間に分割し各区間の確率
等を算出

(4) 信濃川断層帯(長野盆地西縁断層帯) 新名称: 長野盆地西縁断層帯(信濃川断層帯)

南方の麻績(おみ)区間まで延長

(5) 関谷断層(南方への延長を検討したが、延長はせず)



■関東地域評価公表に伴う改訂内容

(1) 主要活断層帯の名称変更

○名称を変更した主要活断層帯

(旧)信濃川断層帯(長野盆地西縁断層帯) → (新)長野盆地西縁断層帯(信濃川断層帯)

(旧)関東平野北西縁断層帯 → (新)深谷断層帯・綾瀬川断層

(旧)神縄・国府津－松田断層帯

→ (新)塩沢断層帯・平山－松田北断層帯・国府津－松田断層帯

(旧)糸魚川－静岡構造線活断層系 → (新)糸魚川－静岡構造線断層帯

(2) 地震発生確率の更新に伴う補完調査対象の変更

○補完調査対象の**基準**

基準①:地震発生確率の最大値が3%以上、最小値が0.1%未満の断層。または、最大値と最小値の幅が概ね10%を超える断層

基準②:ポアソン過程を適用して地震の発生確率を求めている断層(平均活動間隔が約9000年以上の断層を除く)。

基準③:地震の発生確率が「不明」の断層(最新活動時期から500年経過していない断層を除く)

(2) 地震発生確率の更新に伴う補完調査対象の変更(つづき)

- **基準①**に関する変更(地震発生確率の最大値と最小値に関する条件)
- **基準②**に関する変更(確率算出方法に関する条件)

旧評価		新評価		
断層帯名(活動区間)	確率	断層帯名(活動区間)	確率	
神縄・国府津－松田断層帯	0.2%－16%	塩沢断層帯	4%以下 (ポアソン)	
		平山－松田北断層帯	0.09%－0.6%	
		国府津－松田断層帯	－(※)	
糸魚川－静岡構造線活断層系	14%	糸魚川－静岡構造線断層帯	北部	0.008%－15%
			中北部	13%－30%
			中南部	0.2%－8%
			南部	ほぼ0%－0.1%

色の断層帯(活動区間)が**基準①**の対象

色の断層帯(活動区間)が**基準②**の対象

(※)国府津－松田断層帯はプレート境界からの分岐断層と判断し、相模トラフ沿いのM8クラスの地震の何回かに一回の割合で同時に動くと評価している。

(2) 地震発生確率の更新に伴う補完調査対象の変更(つづき)

○基準③に関する変更(確率が不明であるもの)

旧評価		新評価			
断層帯名(活動区間)		確率	断層帯名(活動区間)	確率	
関東平野北 西縁断層帯	平井一櫛 挽断層帯	不明	深谷断層帯	ほぼ0%— 0.1%	
	主部	ほぼ0%— 0.008%	綾瀬川断層	鴻巣—伊 奈区間	ほぼ0%
				伊奈—川 口区間	不明
信濃川断層帯(長野盆地 西縁断層帯)	ほぼ0%	長野盆地西 縁断層帯 (信濃川断 層帯)	飯山—千 曲区間	ほぼ0%	
			麻績区間	不明	

色の断層帯(活動区間)が基準③の対象

(4)「短い活断層や地表に現れていない断層」調査対象の追加

○総合的調査観測計画(H26.8.27)における記述

「短い活断層で発生する地震についても、その位置や規模、過去の断層活動を適切に評価するための調査を実施する必要がある。また、主要活断層帯等既知の構造の延長では、地表にほとんど変形が現れていなくても、活断層が存在する可能性があり、調査を実施する必要がある。

調査対象候補の活断層のリストについては、地域評価の結果を踏まえて、調査観測計画部会において作成することとする。」

関東の地域評価において新たに評価した活断層のうち、

○活動履歴(地震発生確率)が不明な断層

内ノ籠断層、太田断層、越生断層、身延断層

○位置や平均変位速度などの情報が不明瞭な断層

片品川左岸断層、大久保断層

関東の地域評価で新たに評価した活断層のうち、

伊東沖断層、稲取断層帯、石廊崎断層

は1970年代以降に活動しており、近い将来地震が発生する可能性は極めて低いと考えられるため、対象には含めないこととしたい。

